

市民参加を促す実践団体へのヒアリング

研究会メンバーの推薦を受け、「市民参加」に積極的に取り組んでいるNPO、PTA、公民館などを対象にヒアリングを実施しました。団体のコーディネーターならびに参加者（ボランティア、インターンなど）双方から話を聞くことで「市民の参加促進における工夫や仕組み」について、立体的に捉えることを試みました。団体ごとの多様性を大切にした結果、体系化はせず、いくつか共通する視点について、「市民参加10のポイント」として紹介します（P.10より）。多様な参加の場が地域や社会に広がっていく一助になれば幸いです。



福岡県福岡市

一般社団法人 ふくおかFUN

スキューバダイビングのライセンス保持者が、水中生物や環境の観測・調査・記録や、一般の方が海を身近に感じるための体験型イベント、海の環境を守るためのビーチクリーンアップ活動、災害発生時に海中で捜索や作業を行うダイバー育成事業などを実施している。

福岡県宗像市

NPO法人 改革プロジェクト

子どもや女性が安心して暮らせる地域社会の実現を目指して、防犯パトロールとランニングを掛け合わせた「パトラン」を実施。「地域の安全づくり」だけでなく、参加者への「健康づくりと防犯意識の向上」そして「活動を通じた仲間づくり」を目指す。

福岡県太宰府市

認定NPO法人 日本セラピューティック・ケア協会

英国赤十字社が考案した、肩や背中、手などをなでて心身をケアする“手当て”セラピューティックケアを通じて活動。高齢者施設や緩和ケア病棟、ホスピスへの訪問ボランティア、子育て支援、被災地支援、人材育成などの事業を行っている。

佐賀県唐津市

NPO法人 唐津環境防災推進機構KANNE

人々のくらしと自然環境の共存共繁を目指して、地域の宝である虹の松原の再生・保全活動に約7,000人のボランティアと一緒に取り組んでいる。

兵庫県西宮市

特定非営利活動法人 ブレインヒューマニティー

大学生が主体となって運営する組織。小学生を対象としたキャンプの企画運営や、中学生・高校生を対象とした海外ボランティアプログラム、不登校の子ども達の支援など、幅広い領域で活動を展開している。

福岡県福岡市

特定非営利活動法人 チャイルドライン「もしもしキモチ」

子どもに寄り添い、子どもの声に耳を傾け自立を促し、一人ひとりが自分らしく生きることができる社会の実現を目指す。電話・メールで子どもたちの話を聴く「もしもしキモチ」の実施と、子どもたちの話を聴くボランティアの育成・教育などを実施している。

京都府京都市

特定非営利活動法人 山科麗蘭こどものひろば

山科麗蘭地域に住む全ての子どもたちが、豊かに育つ社会環境や文化環境を充実させ、子どもたちの伸びやかな育ちに寄与することを目的とする。「子どもを真ん中に」をキーワードに、子どもと家族が自由に集える居場所づくりや文庫活動、子育て相談などを実施。

埼玉県さいたま市

特定非営利活動法人 クッキープロジェクト

障がいのある人もない人も、会社員も学生もフリーターも、大人も子どもも、多様な人が「まぜこぜ」になって暮らす社会を目指す。地域の方と共同で福祉作業所の商品開発に取り組み、クッキーづくりを通じて様々な人が出会う機会をつくっている。

東京都大田区

嶺町小PTO

PTOは「Parent（親）－Teacher（先生）－Organization/Ouendan（団体/応援団）」の略。保護者と教職員による団体で、他校ではPTAと呼ばれている。嶺町小学校では義務化していたPTA活動を廃止。「できるときにできることをできる人がやる」を基本概念に活動中。

神奈川県横浜市

認定NPO法人 こまちぶらす

「子育てをまちでプラスに」を合言葉に、子育てが「まちの力」で豊かになる社会を目指し、活動している。横浜市戸塚区のこまちカフェを拠点に居場所を通した「対話の場」「出番づくり」や「まちの担い手」を育む場の創造に挑戦している。

長野県飯田市

飯田市公民館

1. 「住民参画の原則」が特徴であり、住民の自由で主体的な学習活動を支援し、地域自治を担う人を育んでいる。
2. 地域住民から選出された専門委員が中心に企画・運営。
3. 地域からの推薦により教育委員会が任命した館長と市役所職員である公民館主事が支える運営体制となっている。

大阪府大阪市

社会福祉法人 大阪ボランティア協会

1965年、全国に先駆けて誕生した市民活動総合サポートセンター。自由意志という「ボランタリズム」の精神を大切に、約120人のボランティアスタッフと10数人の職員が、ボランティアやNPO、企業の市民活動を推進している。

岡山県岡山市

ゆうあいセンター（岡山県ボランティア・NPO活動支援センター）

社会福祉法人岡山県社会福祉協議会とNPO法人岡山NPOセンターの共同体によって管理・運営。パートナーシップ社会の構築を目指し、ボランティア・NPOの活動の健全な発展を支援している。ボランティア・NPOに関する相談、県内各地でセミナー相談会などを実施している。

静岡県静岡市

NPO法人 青少年就労支援ネットワーク静岡

「仕事に就くことを支援するのではなく、働き続けることができる人生に寄り添う」ことを目的に活動している。市民ボランティアが地域の若者に寄り添い、働き続けることを支える「静岡方式」と呼ばれる就労支援のしくみを徹底。約1300名がボランティアに登録中。

沖縄県那覇市

那覇市繁多川公民館（特定非営利活動法人 1万人井戸端会議）

すべての人に対して、生きる力を育み、生きがいの持てるまちづくりのため、地域を支える担い手の育成や地域資源の活用で持続可能なしくみを持った地域社会に寄与することを目的としている。

コミュニティを育む

ボランティア同士の関係性、コミュニティを育むことも大事です。
ボランティアにとって仲間の存在がエンパワメントになります。
また、問題が起きた時ボランティア同士で解決することもできます。
コミュニティを育むことで、コーディネーターが
すべての役割を背負わなくてもよくなります。



CASE : 1

子どもの満足度より自分がやりたいことが先に出してしまう方の場合、ベテランのボランティアさんと組んでもらいます。ベテランのボランティアさんは、「はい、時間！」とタイムマネジメントしたり上手にコーディネートしてくれます。

那覇市繁多川公民館

CASE : 2

こまちパートナー同士の交流の場でもある「ぶらす会」や、やりたいを形にする「企画の会」を通じて、ボランティア同士の相互メンタリングや伴走しあう関係の場を創っています。

認定NPO法人こまちプラス

CASE : 3

地域ごとにLINEでやりとりすることもあります。困りごとがあれば先輩ボランティアをつないだりもします。また、ボランティアも支援を受けている人もみんなが参加できる場を定期開催しています。そこで他の人の関わり方を見るなど学びの場となっています。

NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡

一人ひとりの思いや個性を受け止める

参加する市民は多様です。
一人ひとりの個性を受け止めることで
その人にとっての居場所になっていきます。
時に言葉の奥にある思いを引き出すことも
コーディネーターの役割です。



CASE : 1

ゆるい(走るスピードに強い関心がない)ランナーの方が、防犯意識が高く、またそういう方はファッションに関心があることが多いので、よく見るようにしています。「お疲れ様」より「ありがとう」を使うことの方が多いですね。

NPO法人改革プロジェクト

CASE : 2

参加の入り口は様々で、「ボランティアしたかった」という人から「退職後時間があるからなんとなく」という人までいますが、次第に「奥が深いのもっと勉強したくなった」「相手以上に自分が癒されたかも」等という言葉が出てくるようになるのが、嬉しかったですね。

認定NPO法人日本セラピューティック・ケア協会

CASE : 3

若い子は、素直に何かやりたいと言うのが恥ずかしい。それを引き出してあげることが重要。例えばボランティアが終わったら必ずアイスをあげているので、「何か手伝いたい」と言うかわりに「アイスない?」と聞いてくる子がいます。そういうときは、お手伝いしたいんだなと思って仕事を振っています。

那覇市繁多川公民館